

優れた若手研究型教員の人材育成システム (実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：千葉大学（総括責任者：齋藤 康）

プロジェクトの概要

6 研究科の生命系科学を中心とする自然科学系分野において、国際公募による優秀な人材を採用し、世界的研究拠点形成の中核となる若手研究者を育成する。特任准教授(原則)には、独立した研究環境と研究スペース(50～100 m²)、研究費 1 人平均約 3000 万円/5 年間で用意され、研究の活性化と人材育成システムの改革の大幅な加速が図られる。5 年目には外部学術経験者を含む評価・選考委員会で評価し、受け入れ研究科が准教授(原則)としてテニユアへの移行を決定する。必要となるテニユアポストは、本学の既存のポストを用意する。実施期間終了後は、本プログラムを継続するだけでなく、自然科学系分野全体に本システムの円滑な移行を行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

機関として、テニユアトラック制（以下、「TT 制」という）の積極的な活用を図る意志を示し、本プロジェクトで「生命系科学研究推進機構」を中心に始まった TT 製の制度設計を活かしつつ自然科学系から他部局へと普及していることは評価できる。平成 25 年度から、全学組織である「若手人材育成推進機構」を新たに設置して TT 製の定着を図っており、多様性をもった全学制度への展開とともに、各部局の特徴と整合性のとれた継続性のある養成システムとして構築することを期待する。

- ・ **目標達成度**：自然科学系を中心として千葉大学生命系科学研究機構を立ち上げ、テニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）を育成し、初年度採用の TT 若手に対しては、1 名を除いてテニユア職に採用するなど養成の成果を上げており、当初目標はほぼ達成されている。本プロジェクトの成果を活かし、全学展開が着実に進むように事務支援組織を強化し、TT 制が機関の発展につながることを期待する。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：透明性の高い国際公募によって TT 若手が採用されており、テニユア職採用のために多段階評価に基づいて客観性の高い評価手法がとられていることは評価できる。
- ・ **制度設計に基づく実施内容・実績**：公正で厳正な評価・審査体制を確立し、恵まれた自立環境が整備され、メンターの研究及び教育への支援体制も機能していることは評価できる。今後は、評価・審査基準について、所属部局の自主性が尊重されることと全学的な基準との整合性

を明確にし、全学展開を図ることを期待する。

- **制度設計に対するマネジメント**：TT 制を推進するにあたって、機関内のチェック及び外部評価を実施しており、制度の柔軟な軌道修正を行って TT 制を自機関に取り入れようとする意欲の高さは評価できる。今後は、学長のリーダーシップによる TT 若手及びテニユア獲得後の教員への研究活動支援制度の創設などを通じて、若手研究者の養成システムの確立につながることを期待する。
- **実施期間終了後における取組**：学長のリーダーシップの下、TT 制の継続は中期計画に明示されており、これに対応するための運営組織「若手人材育成推進機構」が新たに設置され、継続のための予算措置も行われていることは評価できる。今後は、人文社会系を含めた全学的な TT 制の定着に向けて、各部局の特徴を踏まえつつ、整合性のとれたテニユア審査基準等の検討及びその実施を期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価結果を踏まえ、TT 若手の自立性を確保・促進する観点から、メンターを 2 人体制に改めたことは評価できる。昇任できる十分なテニユアポスト数を明示することについては早急に実現することを期待する。